

NUMAZU City
TOURISM
PROMOTION VISION



沼津市観光振興ビジョン



【目次】

第1章 改定の背景	1
第2章 計画期間、点検・評価	2
第3章 観光などの現状	3
1 国の状況	3
2 静岡県 of 状況	4
第4章 本市観光における分析	5
1 人口推計	5
2 本市の状況	6
3 観光交流客数の推移	7
4 外国人宿泊客数の推移	8
5 本市観光の特徴(強み・弱み)	11
第5章 観光振興ビジョンの方向性	12
1 目標	12
2 誘客の主なターゲット	12
3 観光振興ビジョン改定後の数値目標	13
第6章 目標を具現化する4つの柱及び9つの基本施策	14
観光振興の柱1 沼津の魅力の発信	15
・基本施策1 沼津の魅力を活用した情報発信	15
・基本施策2 新たな手法による情報発信	16
観光振興の柱2 地域資源の創造と磨きあげ	16
・基本施策3 地域資源の創造	16
・基本施策4 観光振興の担い手づくり	17
・基本施策5 県東部・伊豆地域等との連携	18
観光振興の柱3 沼津ならではの観光の提供	19
・基本施策6 誘客につながる施設整備等の推進	19
・基本施策7 新たな観光需要への対応	20
観光振興の柱4 インバウンド施策の推進	21
・基本施策8 外国人目線による情報提供	21
・基本施策9 在住外国人との連携	21

7章 目標達成に向けた具体的な施策	23
(1) AI機能等を通じた利便性の高い観光情報の提供	23
(2) フィルムコミッションによるロケの誘致	23
(3) デジタル技術の活用による旅行者の分析及び誘客施策への活用	24
(4) スポーツツーリズムの推進	24
(5) 官民連携による体験型ツーリズムの創造及び推進	25
(6) 歴史・文化資源の活用	25
(7) 観光振興の担い手づくりの推進	26
(8) 観光ボランティアガイドの育成及び活動支援	26
(9) 近隣大学など教育機関との連携を通じた担い手の育成	27
(10) 伊豆半島ジオパークやガーデンツーリズム等を活用した連携及び誘客の推進	27
(11) 北条五代観光推進協議会やNHK大河ドラマなど歴史等を活用した連携及び誘客の推進	28
(12) 新しい生活スタイルに合わせた施設等の整備	28
(13) 観光客が利用しやすい観光スポットの整備	29
(14) ワークেশンの推進	29
(15) マイクロツーリズムを踏まえた観光情報の提供	30
(16) 外国語SNSによる本市の旬な観光情報の発信	30
(17) 外国人の嗜好などにも配慮した外国語版観光サイトの制作運営	31
(18) 外国語による観光案内及びイベント情報の提供	31
(19) 外国人誘客施策立案のための在住外国人会議の開催	32
第8章 市内エリアごとの戦略	33
1. 西部エリア	34
2. 中心部エリア	35
3. 三浦エリア	36
4. 戸田エリア	37
第9章 コロナ禍における対応	38
参考資料	40

第1章 改定の背景

わが国において観光は、21世紀における重要な政策の柱として、明確に位置づけられています。急速に成長するアジアをはじめとする世界の観光需要を取り込むことにより、地域活性化、雇用機会の増大などの効果も期待できます。

国は、平成15年（2003年）の「ビジット・ジャパン事業」開始以降、数多くの観光に関する計画を策定し、ビザ緩和などのこれまでにない大胆な取組を実施することにより、訪日外国人旅行者数は、大幅に増加しています。一方、国内旅行は団体旅行から個人旅行へのシフトに加え、日帰り旅行や、テーマや目的を明確にし、それに沿った訪問地・体験などを組み込んだ旅行の人气が高まっています。

このような中、本市は、平成18年（2006年）3月に「観光振興ビジョン」を策定し、官民一体となって観光振興によるまちの活性化を推進し、平成18年度に約410万人であった観光交流客数は、平成30年度には約450万人となり、約10%増加しています。

しかしながら、策定から約15年が経過し、その間、観光スタイルの多様化やICTの進展、インバウンドの増加など、観光を取り巻く環境は著しく変化し、現行のビジョンとの乖離が散見されます。一方で、アニメの活用のほか、観光客を受け入れる施設の整備などが進んだこと等により、市内の回遊性が生まれつつあるなど、日帰り旅行や、テーマや目的が明確となった旅行の需要を取り込めている状況も見られます。また、令和2年（2020年）に世界中へと感染が拡大した新型コロナウイルス感染症の影響により、従来にはない観光対応が求められるようになっています。

こうした状況を踏まえ、「沼津ならでは」の地域資源を最大限に活用し、官民一体となって観光振興に取り組むことにより、地域経済の活性化のほか、シビックプライドの醸成などを図っていくため、沼津市観光振興ビジョンを改定します。

第2章 計画期間、点検・評価

本ビジョンの計画期間は、第5次沼津市総合計画の前期推進計画に合わせ、令和3年度（2021年度）から令和7年度（2025年度）までの5か年とします。

また、本ビジョンを効果的に推進し、その確実な実現を図ることを目的として、毎年度、施策の点検・評価を行うこととし、計画期間終了年度の令和7年度（2025年度）に最終評価を行い、ビジョンの見直しを行います。

年度	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7	R 8
関連計画	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026
第5次沼津市総合計画 前期推進計画	策定						
沼津市観光振興ビジョン	改定					評価・見直し	



第3章 観光などの現状

1 国の状況

国は、平成15年（2003年）の「ビジット・ジャパン事業」開始以降、平成18年（2006年）に観光立国推進基本法を制定し、これに基づき、平成29年（2017年）に観光立国推進基本計画が閣議決定されました。この内容としては、観光立国の実現に関し、国が総合的かつ計画的に講ずべき施策として、「国際競争力の高い魅力ある観光地域の形成」や「国際観光の振興」などが掲げられています。

令和2年度版観光白書によると、令和元年（2019年）の訪日外国人旅行者数は、過去最高となる3,188万人（前年比2.2%増）となり、さらに、訪日外国人旅行者による日本国内における消費額も4兆8,135億円（前年比6.5%増）で、7年連続で過去最高を更新しました。

一方、国内旅行においては、同年の日本人国内宿泊旅行者数は延べ3億1,162万人（前年比7.1%増）、国内日帰り旅行者数は延べ2億7,548万人（前年比1.8%増）となり、日本人国内旅行消費額については、宿泊旅行及び日帰り旅行合計で21兆9,000億円（前年比7.1%増）となっています。

しかしながら、令和2年（2020年）1月以降、新型コロナウイルス感染症の世界的な拡大により、観光需要は大きく減少しており、令和2年度版観光白書によると、同年4月の訪日外国人旅行者数は前年同月比で99.9%減、同年1月－3月期の訪日外国人旅行消費額は41.6%減となりました。国内旅行においても、令和2年（2020年）3月の日本人国内旅行消費額は、前年同月比で53.1%減となっています。

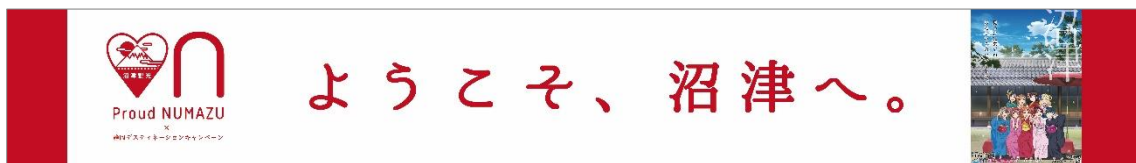
このような中、国は国内における旅行・飲食・イベントなどの需要喚起事業として、国内での日本在住者を対象とした「Go To キャンペーン」事業を実施しています。

観光は、社会の変化や情勢に影響を受けることから、国や地方自治体においても、常に柔軟な対応が求められています。

2 静岡県の状況

県は、平成30年（2018年）に、平成30年度から令和3年度までを対象期間とする観光分野の分野別計画である「静岡県観光躍進基本計画」を策定し、「国際競争力の高い観光地域づくり」「観光客の来訪の促進」「観光人材の育成と来訪者の受入環境の整備」という3つの基本方針のもと、個別具体の施策を展開しています。

平成30年度静岡県観光交流の動向などによると、静岡県内の観光交流客数は、約1億5,342万人であり、令和元年度についても、12月までは4-6月の大型観光誘客企画「静岡デスティネーションキャンペーン」や、9-10月のラグビーワールドカップ開催などの影響により、前年度と比べ増加傾向にあったものの、令和2年1月以降の新型コロナウイルス感染症の影響により、約1億4,716万人となり、前年度比で4.1%減となりました。



第4章 本市観光における分析

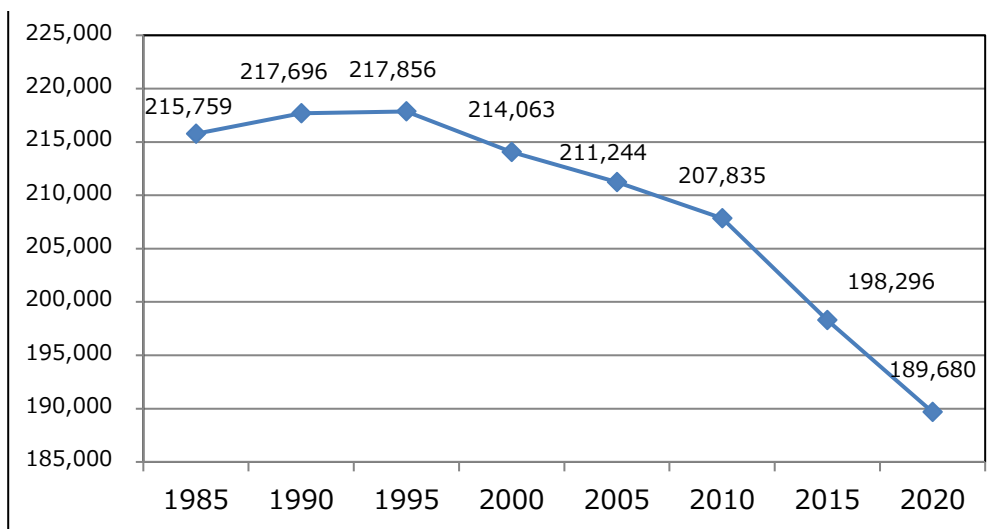
1 人口推計

本市の人口は、平成7年（1995年）の217,856人をピークに減少に転じ、令和2年4月には189,680人へと、25年間で約28,000人、約12.9%減少しています。

国の推計では令和22年（2040年）に約145,000人まで減少するものと見込まれ、令和2年（2020年）3月に改訂された「沼津市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン」によると、市の人口減少抑制に係る施策などにより、出生率と純移動率の目標値が達成された場合でも165,900人と見込まれており、令和元年度（2019年度）には、49年ぶりに社会動態がプラスに転じるなど明るい話題はあるものの、今後も人口減少が続くものと推計されています。国などの調査によると、定住人口1人当たりの年間消費額（125万円）は、旅行者の消費に換算すると外国人旅行者8人分、国内旅行者（宿泊）25人分、国内旅行者（日帰り）81人分にあたることから、本市を訪れる旅行者を増やしていくことにより、人口減少に伴う消費の減少を補うことができると言われています。

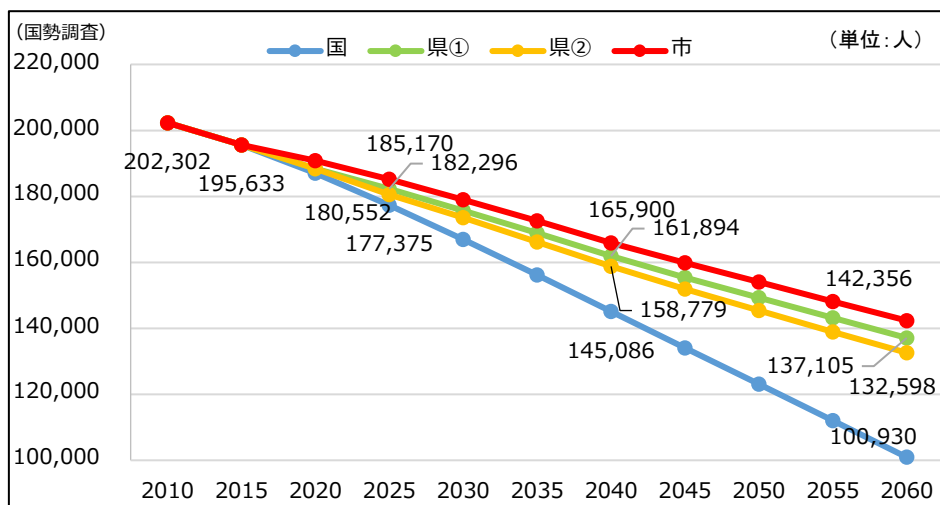
<総人口の推移（住民基本台帳）>

（単位：人）



※各年4月1日現在、日本人住民数値。1985年から2000年は旧戸田村の人口を含む。

<人口の長期見通しと将来展望>



(国) 国立社会保障・人口問題研究所が「日本の地域別将来推計人口」で示した推計方式に準拠し、期間を2060年まで延長して、社会増減(移動率)は最近の傾向が今後も続くと仮定している。

(県) 合計特殊出生率が①2035、②2040年以降人口を長期的に一定に保てる水準の2.07となり、かつ社会動態が①2025、②2030年に±0、その後持続した場合の2つのシミュレーション。

(市) 合計特殊出生率が2025年に希望出生率1.8に達し、その後2035年までに2.07へ徐々に上昇、かつ社会動態が2020年に±0となり、その後持続した場合のシミュレーション。

2 本市の状況

本市は、平成18年(2006年)3月に「観光振興ビジョン」を策定し、「伊豆半島の玄関口として、国内外から静岡県東部・伊豆地域への観光交流の核となる個性ある拠点都市を目指します。」という目標のもと、多面的な価値を有する「海」をキーワードとした観光振興によるまちづくりを推進してきました。

推進にあたっては、観光振興を通じたまちづくりの数値目標として、市の総合計画における平成22年の数値目標から5項目を設定しました。このうち、目標を達成したのは、東名沼津インター利用指数のみとなりましたが、観光客数については増加傾向が続き、平成30年度の実績では、平成22年の数値目標を上回る約450万人となりました。

<前回観光振興ビジョン数値目標>

項目	H15 実績	H22		H30 実績※ (参考)
		目標	実績	
東名沼津インター利用指数	100	107.4	111.5	—
沼津駅利用者数(万人)	842	1,000	785.4	760.3
キラメッセ入場者数(万人)	46	50	22.2	34.1
観光交流客数(万人)	372	410	345.1	450.1
歴史・文化施設等利用者数(万人)	66	80	53.6	—

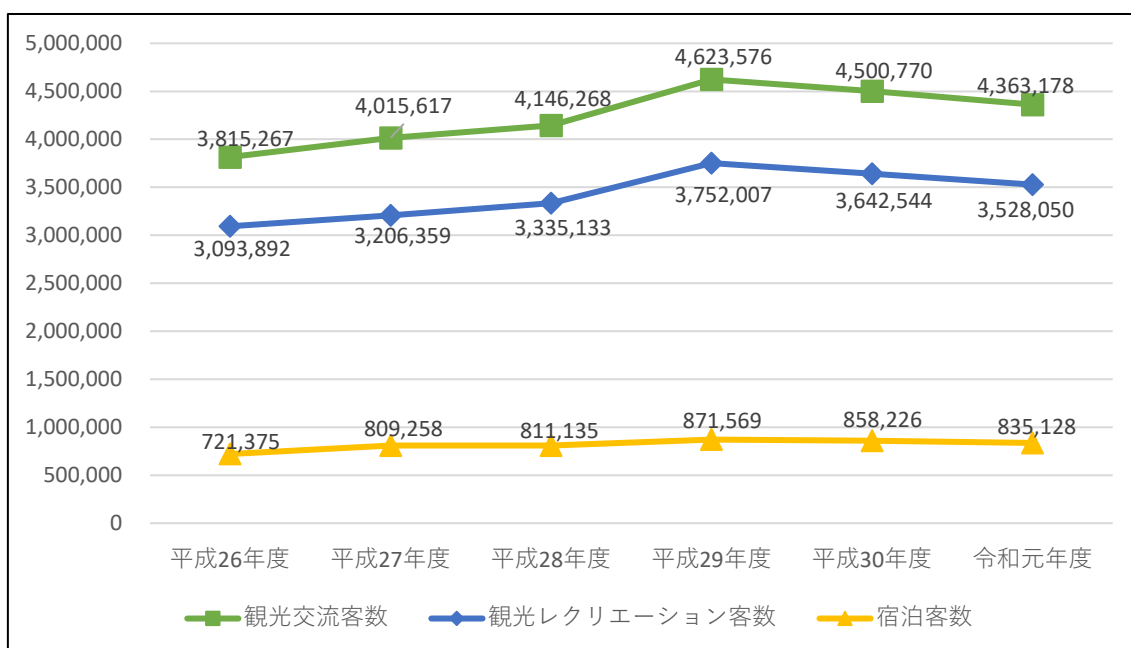
※新型コロナウイルス感染症の影響を受けていない直近の実績値

3 観光交流客数の推移

本市の観光交流客数は、平成 26 年度の約 380 万人から平成 30 年度の約 450 万人にまで増加したほか、宿泊客数についても、平成 26 年度の約 72 万人から平成 30 年度の約 86 万人にまで増加しています。

なお、新型コロナウイルス感染症の影響により、観光交流客数、宿泊客数とともに、令和元年度・令和 2 年度は減少しています。

< 静岡県観光交流客数調査 >



出典：静岡県観光交流の動向

4 外国人宿泊客数の推移

平成 28 年度から令和元年度までの本市の外国人宿泊客数について、令和元年度は、新型コロナウイルス感染症の影響などにより減少していますが、近年では概ね 4 万人程度で横ばい傾向にあります。

なお、本市の外国人宿泊客数を国・地域別に見てみると、中国からの宿泊客の割合が高く、令和元年度を除くと全体に占める割合は、6 割を超えています。また、直近では、台湾や韓国からの宿泊客数が増加傾向にあるほか、欧米からの宿泊客数は、年間 4 千人程度で一定となっています。

<各年度本市の外国人宿泊客数（国・地域別）>

単位：人・%

	中国		欧米		台湾	韓国	その他	合計	対前年
	人数	割合	人数	割合	人数	人数	人数	人数	伸び率
H28	29,102	68.0	4,322	10.1	1,918	1,442	6,001	42,785	—
H29	23,908	62.7	4,411	11.6	2,286	1,922	5,605	38,132	▲10.9
H30	26,139	61.0	4,447	10.4	2,708	2,653	6,888	42,835	12.3
R 1	15,392	50.9	4,426	14.6	2,128	2,923	5,344	30,213	▲29.5

※市内全施設の宿泊客数でなく、抽出した施設からの報告数値

次に、平成 29 年から令和元年までの全国及び静岡県 of 外国人宿泊客数を見ても、国では、平成 15 年（2003 年）の「ビジット・ジャパン事業」開始以降、平成 18 年（2006 年）の観光立国推進基本法成立などを受け、平成 24 年度から 5 か年を計画期間とする「観光立国推進基本計画」、平成 29 年度から令和 2 年度までの 4 か年を計画期間とする新たな「観光立国推進基本計画」を策定し、具体的な数値目標のもと計画を推進することにより、外国人宿泊客数は、年 10%を超える伸び率を見せています。また、県においても、平成 26 年度から 4 か年を計画期間とする「ふじのくに観光躍進基本計画」、平成 30 年度から令和 3 年度を計画期間とする「静岡県観光躍進基本計画」をそれぞれ策定し、誘客に係る施策に取り組むことにより、外国人宿泊客数は増加傾向にあります。

<各年全国及び静岡県の外国人宿泊客数（国・地域別）>

単位：万人・%

	全国					静岡県				
	中国	台湾	韓国	合計	伸び率	中国	台湾	韓国	合計	伸び率
H29	1,760	1,139	1,102	7,293	—	86	13	6	134	—
H30	2,217	1,210	1,195	8,357	14.6	101	11	7	157	17.2
R1	2,985	1,347	972	10,131	21.2	149	10	7	211	34.4

出典：観光庁「宿泊旅行統計調査」

次に、令和元年の全国及び静岡県の外国人宿泊客数を国・地域別に見てみると、静岡県は本市と同様、中国からの宿泊客の割合が高く、全体に占める割合が7割を超えている一方で、全国では、中国以外にも台湾や韓国などからも満遍なく宿泊客が訪れていることがわかります。

<令和元年全国及び静岡県の地域別外国人宿泊者数>

単位：万人・%

	全国	割合	静岡県	割合
中国	2,985	29.4	149	70.6
台湾	1,347	13.3	10	4.8
韓国	972	9.6	7	3.3
アメリカ	728	7.2	6	2.8
香港	698	6.9	5	2.4
その他	3,401	33.6	34	16.1
合計	10,131	100.0	211	100.0

出典：観光庁「宿泊旅行統計調査」

この要因としては、富士山静岡空港における国際線就航先の多くが中国国内であることによるものと考えられますが、本市は首都圏にも近く、東京から箱根や富士山を経て大阪に至る「ゴールデンルート」上にもあることから、首都圏にある空港に発着する外国人観光客をこれまで以上に誘客する必要があります。

<富士山静岡空港の国際線（2019～2020年冬ダイヤ）>

	就航先
中国	上海、寧波、杭州、北京、西安、連雲港、南昌、温州、煙台
台湾	台北
韓国	ソウル

出典：富士山静岡空港ホームページ



写真提供：静岡県観光協会

5 本市観光の特徴（強み・弱み）

本市観光の強みや弱みを、SWOT分析を活用してまとめると以下のとおりとなります。

S trengths 強み <ul style="list-style-type: none">■首都圏に近く、箱根・伊豆・富士山などにアクセスしやすい地理的優位性■温暖な気候■きれいな海水浴場のほか、年間166万人が訪れる沼津港に象徴される海の魅力■社会現象にもなったアニメの舞台■名勝かつガーデンツーリズム登録制度に登録された沼津御用邸記念公園	W eaknesses 弱み <ul style="list-style-type: none">■海や山など何でもあるものの、観光の特徴が明確になっていない■近隣に著名な温泉地が多く観光における最終目的地になりにくい■外国人などの受け入れ環境■自治体の規模に比べ宿泊客数が少ない
O pportunities 機会 <ul style="list-style-type: none">■国内観光への回帰の機運■近距離・短期間観光の提唱■東京2020オリンピック・パラリンピックの開催（自転車競技など）■ワーケーションなどの新たな観光需要の動き■ららぽーと沼津開業による認知度向上	T hreats 脅威 <ul style="list-style-type: none">■人口減少及び少子高齢化の進行に伴う観光市場の縮小化■新型コロナウイルス感染症の影響の長期化

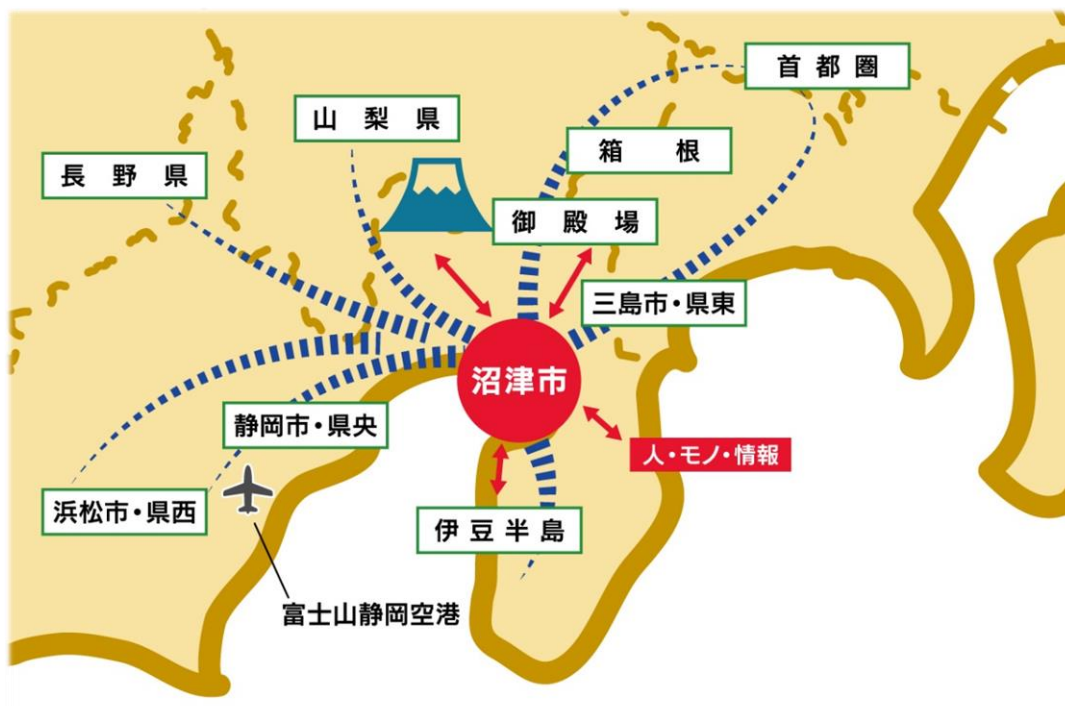
第5章 観光振興ビジョンの方向性

1 目標

観光スタイルの変化や ICT の進展、インバウンドの増加などの社会の変化に適応しつつ、コロナ禍の影響から新しい生活スタイルに合わせた誘客を進め、人々を惹きつける観光都市づくりを目指します。

2 誘客の主なターゲット

本市は首都圏に近く、また東京から箱根や富士山を経て大阪に至るゴールデンルート上にもあるという地理的優位性を生かし、これまでと同様に首都圏からの誘客に加え、インバウンドの獲得を目指していくこととします。また、マイクロツーリズム推進などの観点から、県内や山梨県、長野県など隣接県等からの誘客についても連携を図りながら、実施することとします。



3 観光振興ビジョン改定後の数値目標

今後一層の観光振興を図っていくためには、本市観光の特徴や現状を踏まえた上で、計画最終年度における数値目標を設定し、目標達成に向けた取組を進めていくことが必要です。

<観光振興ビジョン改定後数値目標>

項目	R1実績	R7目標
観光交流客数（人）	4,363,178	6,000,000
観光レクリエーション客数（人）※1	3,528,050	4,800,000
宿泊客数（人）	835,128	1,200,000
外国人宿泊客数（人）※2	30,213	100,000
観光ポータルサイト閲覧数（件）	2,184,947	3,000,000
英語版観光ポータル閲覧数（件）※3	—	240,000
ふるさと応援基金寄附金寄附件数（件）	15,963	35,000
地域ブランド調査「魅力度」ランキング（位）	183	99
プラサヴェルデ利用人数（人）	625,644	900,000

※1 観光施設、スポーツレクリエーション施設、行祭事及びイベント等への入場者数・参加者数の合計。主に日帰りの観光客数。

※2 市内全施設の宿泊客数でなく、抽出した宿泊施設からの報告数値

※3 令和2年度中に制作

第6章 目標を具現化する4つの柱及び9つの基本施策

観光振興の柱1 沼津の魅力の発信

本市は、海や食、景観など「沼津ならではの」の魅力を数多く有していることから、これら魅力を活用した観光プロモーションを推進します。

また、SNS等の様々な媒体を活用した情報発信、スポーツ等による沼津ブランドイメージの確立など、本市知名度の向上を図ります。

観光振興の柱2 地域資源の創造と磨きあげ

地域資源の創造や磨きあげを行い誘客に結びつけていくためには、市民をはじめ関係団体などとの連携が必要であることから、地域資源を有する地元自治会やボランティア団体なども含めた観光振興の担い手づくりに努めます。

また、これら取組に加えて、近隣市町などとの広域連携を推進し、地域資源の更なる価値向上を図ります。

観光振興の柱3 沼津ならではの観光の提供

観光交流客数の増加を図るため、本市の持つ豊かな自然や多彩な地域資源を活用し、沼津でしか味わえない体験型ツーリズムの推進を図るとともに、観光客が利用しやすい施設の整備などを行います。

また、新型コロナウイルス感染症の影響により、新たな観光需要も生まれてきていることから、これら需要に対応する取組を推進します。

観光振興の柱4 インバウンド施策の推進

アフターコロナを見据え、海外からの観光需要を確保していくため、様々な媒体を活用した海外向けの情報発信を行います。

また、在住外国人の協力などにより、コロナ禍にあっても実施可能なインバウンド施策に取り組むほか、魅力ある体験観光など、外国人のニーズに合った観光商品の開発に努めます。

観光振興の柱 1 沼津の魅力の発信

【成果目標 再掲】

項目	R1実績	R7目標
観光ポータルサイト閲覧数（件）	2,184,947	3,000,000
ふるさと応援基金寄附金寄附件数（件）	15,963	35,000

・基本施策 1 沼津の魅力を活用した情報発信

本市は、沼津御用邸記念公園をはじめとする歴史・文化のほか、市内中心部に隣接する海・山・川の豊かな自然、全国で最も水質がきれいな海水浴場など「沼津ならではの」魅力を有しています。また、市内各所には「ぬまづの宝」として市民から選ばれた地域資源も点在しています。これらの魅力に加え、深海魚など、地元の人には認知されているものの、これまで顕在化してこなかった新たな魅力が「発掘・創造」されてきています。これら沼津ならではの魅力を、SNSなどの様々な媒体を活用し情報発信をするとともに、ふるさと納税やフィルムコミッションによる映画等のロケの誘致など、様々な手法を活用した観光プロモーションを推進します。

【主な取組】

- ◆ AI機能等を通じた利便性の高い観光情報の提供
- ◆ フィルムコミッションによるロケの誘致
- ◆ ふるさと納税を活用した沼津の魅力の発信
- ◆ 沼津の魅力を盛り込んだ観光動画の制作及び発信
- ◆ 西浦みかんや沼津茶、米、アジやサバ等「沼津ならではの」魅力のブランド化推進

・基本施策2 新たな手法による情報発信

新型コロナウイルス感染症の影響により、国においては「新たな日常」の実現を目指し、その構築の原動力となるデジタル化への集中投資・実装とその環境整備を進めています。これらデジタル技術を最大限活用することにより、本市を訪れる旅行者の方々に対し安全・安心な新しい観光スタイルを提供するとともに、旅行者の属性や旅行目的などの嗜好、周遊ルート等の分析を行い、今後の誘客施策に活用していきます。また、サイクリングやフェンシングなどのスポーツコンテンツを活用した情報発信を行うことにより、本市への誘客を促進します。

【主な取組】

- ◆ デジタル技術の活用による旅行者の分析及び誘客施策への活用
- ◆ スポーツツーリズムの推進
- ◆ 観光型MaaSなどの活用

観光振興の柱2 地域資源の創造と磨きあげ

【成果目標 再掲】

項目	R1実績	R7目標
地域ブランド調査「魅力度」ランキング（位）	183	99

・基本施策3 地域資源の創造

本市は、様々な沼津ならではの魅力を有しています。今後、更なる誘客を図っていくためには、これら魅力の活用に加えて、新たな地域資源を創造していく必要があります。近年は、地域の自然資源と文化、伝統、歴史等を掛け合わせることで新たな体験価値が生まれるコンテンツなどの人気が高まっていま

す。市民や地域、行政が連携し、市内の歴史・文化資源のほか、海・山・川の自然資源を効果的に活用することにより、新たな地域資源を創造するとともに、これら地域資源が、新たな沼津の魅力となるよう努めます。

【主な取組】

- ◆ 官民連携による体験型ツーリズムの創造及び推進
- ◆ 歴史・文化資源の活用
- ◆ まちなか回遊性の向上

・基本施策4 観光振興の担い手づくり

地域資源の創造や磨きあげを行い、それらを活用した観光振興を図っていくためには、行政と共に取組を推進する担い手の存在が不可欠です。観光協会などの関係団体と連携し、様々な観光施策に取り組んでいますが、地域資源の磨きあげを行うためには、なにより、その地域資源を大切に保護・継承していくことができる地域の住民や各種団体が必要です。この磨きあげの結果、その地域資源が唯一無二の存在となり、それを目当てとして更なる誘客が図られる、また、地域資源の磨きあげを行う住民などが、結果として観光振興の担い手になる、という仕組みづくりを促すなど、新たな観光振興の担い手づくりを推進します。さらに、これら担い手が連携し合うことにより、より一層の観光振興が図られるよう、ネットワーク化を推進します。

また、市民が沼津を愛し、自慢できるマインドを醸成することで、行政だけではなく、市民が積極的に情報発信を行い、自ら実行に移す好循環を生み出し、市をあげてのホスピタリティマインドの向上を目指します。

【主な取組】

- ◆ 観光振興の担い手づくりの推進
- ◆ 観光ボランティアガイドの育成及び活動支援
- ◆ 近隣大学など教育機関との連携を通じた担い手の育成
- ◆ 観光協会等の関係団体や住民などとの連携による地域資源の磨きあげ
- ◆ インナープロモーションによるシビックプライドの醸成
- ◆ 小・中・高等学校などにおける地域理解と産業活性化に向けた観光教育の啓蒙

・基本施策5 県東部・伊豆地域等との連携

本市は首都圏から近く、世界ジオパークの認定や全国的な知名度を持つ温泉地などを数多く包含する、伊豆半島の玄関口に位置していることから、宿泊などを伴う発着型の周遊観光に加え、観光・飲食施設が隣接する沼津港などの立ち寄り型観光にも適した環境にあります。また、近年は沼津御用邸記念公園が、近隣の皇室ゆかりの施設とともに、国のガーデンツーリズム登録制度に登録されるなど、今後ますます広域での観光需要の高まりが見込まれることから、既存の広域連携の枠組みをベースに、更なる連携強化を目指します。

【主な取組】

- ◆ 伊豆半島ジオパークやガーデンツーリズム等を活用した連携及び誘客の推進
- ◆ 北条五代観光推進協議会やNHK大河ドラマなど歴史等を活用した連携及び誘客の推進
- ◆ 美しい伊豆創造センターなど広域連携によるブランド力の向上

観光振興の柱3 沼津ならではの観光の提供

【成果目標 再掲】

項目	R1実績	R7目標
観光レクリエーション客数（人）	3,528,050	4,800,000
宿泊客数（人）	835,128	1,200,000
プラサヴェルデ利用人数（人）	625,644	900,000

・基本施策6 誘客につながる施設整備等の推進

今後一層の誘客を図っていくためには、旅行者が利用しやすい施設の整備を行っていく必要があります。

近年、ららぽーと沼津や沼津港に新たな施設がオープンするなど、本市への誘客につながる施設整備が進んでいます。さらに沼津港周辺では、今後、浮棧橋をはじめとする内港エリアの整備が予定されており、更なるにぎわいの創出が期待されています。これら大規模施設の整備に加え、市内に点在する観光スポットの施設整備等を利用者目線に立って進めるなど、その価値向上を図ります。

【主な取組】

- ◆ 新しい生活スタイルに合わせた施設等の整備
- ◆ 観光客が利用しやすい観光スポットの整備
- ◆ 「沼津港みなとまちづくり推進計画」に基づく沼津港内港エリアの整備促進

・基本施策7 新たな観光需要への対応

新型コロナウイルス感染症の影響により減少した観光交流客数などを増加させていくためには、行政、観光協会などの関係団体、観光に携わる民間事業者などが連携し、コロナ禍によって生じた新たな観光需要に対応していく必要があります。

新型コロナウイルス感染症の影響などにより、旅行先については、近距離・短期間の観光が見直されているほか、マイクロツーリズムといった、自宅から30分～1時間で行ける範囲の旅行スタイルも提唱されています。市民をはじめ静岡県民などが、市内観光スポットを巡る機会の増加も見込まれることから、これまで以上に、市民などに対する観光情報の提供が必要となっています。

また、地方でリモートワークを行い、併せてリフレッシュを行うなどのコロナ禍を踏まえた新たな観光需要も生まれてきています。これら新たな観光需要に対し、沼津ならではの魅力を盛り込んだメニューの創出など誘客につなげる取組を官民連携により推進します。さらに、本市への将来的な移住・定住につながるよう、沼津の魅力発信や関係人口の増加に努めます。

【主な取組】

- ◆ ワークেশョンの推進
- ◆ マイクロツーリズムを踏まえた観光情報の提供
- ◆ MICEの誘致
- ◆ 新たな日常に対応する公園などのオープンスペースを活用したにぎわいづくりの創出

観光振興の柱4 インバウンド施策の推進

【成果目標 再掲】

項目	R1実績	R7目標
外国人宿泊客数（人）	30,213	100,000
英語版観光ポータル閲覧数（件）	－	240,000

・基本施策8 外国人目線による情報提供

本市の外国人宿泊客数は、新型コロナウイルス感染症の影響により、令和元年度に減少し、当面の大幅な回復は見込めない状況にあります。一方で民間団体の調査によると、新型コロナウイルス感染症終息後に旅行したい国・地域の調査では、わが国がトップに選ばれるなど、今後も、海外からの旺盛な観光需要が見込めることから、様々な媒体を活用した情報発信を行い、本市の持つ魅力を訴求していくことが必要です。

本市はこれまでも、中国人向けSNSによる情報発信などを行ってきましたが、改めて旅行者である外国人目線に立ち、それぞれのお国柄や嗜好などにも配慮した的確な情報提供を絶えず行うことにより、今後の誘客につなげていきます。

【主な取組】

- ◆ 外国語SNSによる本市の旬な観光情報の発信
- ◆ 外国人の嗜好などにも配慮した外国語版観光サイトの制作運営

・基本施策9 在住外国人との連携

インバウンドの当面の回復が見込めない中、まずは、市内在住の外国人に対し沼津の魅力を理解してもらえるよう、外国語による市内イベントや観光スポット等の観光情報の提供などを行います。また、外国人それぞれの母国から誘

客をする際の方策などについて協議を行う会議等を開催し、効果的な誘客施策を検討するとともに、外国語による観光パンフレットなどについても協働して制作するなど、在住外国人との連携を推進します。

【主な取組】

- ◆ 外国語による観光案内及びイベント情報の提供
- ◆ 外国人誘客施策立案のための在住外国人会議の開催
- ◆ 在住外国人との協働による観光パンフレット等の制作

7章 目標達成に向けた具体的な施策

今回掲げた成果目標を達成するため、9つの基本施策ごと、以下のとおり、具体的な事業に取り組むこととします。

基本施策1 沼津の魅力を活用した情報発信

(1) AI機能等を通じた利便性の高い観光情報の提供

誰でも手軽に、旅行の目的や時間、嗜好などに沿ったオリジナルの観光コースを作成できるよう、観光ポータルサイトにAI機能を追加します。併せて、レコメンド機能を追加し、観光、飲食、体験など本市の魅力を余すことなく旅行者に訴求することにより、市内観光消費の拡大を図ります。

事業名称	継続・新規
観光ポータルサイト運営事業	一部新規

(2) フィルムコミッションによるロケの誘致

本市は、首都圏に近く、海・山・川の自然をはじめ、市内中心部にレトロな街並みを有するなど、ロケ地として選ばれやすい環境にあります。この恵まれた環境を、映像制作事業者等に対し、ロケーションライブラリーなどを活用した情報発信を行っていくことにより、映画等のロケの誘致を推進します。また、地域のフィルムコミッションなどの活動支援や連携を図り、本市を舞台とする作品を通じた本市の認知度向上と、観光交流人口の拡大を図ります。

事業名称	継続・新規
フィルムコミッション推進事業	継続

基本施策2 新たな手法による情報発信

(3) デジタル技術の活用による旅行者の分析及び誘客施策への活用

本市を訪れる旅行者数の拡大及び旅行者の満足度の向上を図るため、観光ポータルサイト内の検索履歴やオリジナルの観光コースの作成状況のデータ、関係団体や民間事業者などが持つ旅行者の周遊データなどを活用し、旅行者の行動分析を行います。また、分析結果に基づき、効果的な対応策の検討を行い、具体的な誘客施策につなげます。

事業名称	継続・新規
観光ポータルサイト運営事業（再掲）	一部新規
広域観光事業	継続

(4) スポーツツーリズムの推進

本市が誇る豊かな自然環境や、首都圏との近接性などの強みは、スポーツの持つ魅力や可能性との親和性が高いため、本市ならではのスポーツコンテンツを磨きあげてブランドを確立し、効果的な情報発信を行うことによって、スポーツをきっかけとした誘客と周遊観光の推進を図ります。

事業名称	継続・新規
スポーツ観光推進事業	継続
沼津サイクルツーリズム推進事業	一部新規
アスクラロ沼津ホームタウン推進事業	一部新規
フェンシングのまち沼津推進事業	一部新規

基本施策3 地域資源の創造

(5) 官民連携による体験型ツーリズムの創造及び推進

旅行者に本市の魅力を楽しんでもらい、滞在時間の拡大を促していくためには、海で行うダイビングや船釣り、川で行うカヤック、山で行うみかん狩りなど、大自然の中で行う体験型ツーリズムの推進が有用です。これら既存の体験メニューに加え、民間事業者と連携し、新たな体験型ツーリズムを創造するとともに、首都圏メディアなど様々な媒体を活用したプロモーションを推進します。

事業名称	継続・新規
観光プロモーション事業	一部新規
沼津の魅力広報・営業事業	一部新規

(6) 歴史・文化資源の活用

本市には、皇室ゆかりの沼津御用邸記念公園をはじめ、北条早雲旗揚げの城として知られる興国寺城跡、国指定重要文化財である擬洋風建築の松城家住宅など、市内各所に「沼津の宝」が点在しています。これらを効率よく散策できるよう「まちあるきマップ」を作成するほか、施設に相応しい、ユニークベニュー（歴史的建築物等で開催するイベントなど）として活用します。

事業名称	継続・新規
イベント展開事業	一部新規
にぎわいづくり推進事業	一部新規
文化財活用推進事業	継続

施策4 観光振興の担い手づくり

(7) 観光振興の担い手づくりの推進

市民が沼津を愛し、自慢できるマインドを醸成するため、「ぬまづの宝100選」や「Proud NUMAZU」等を通じたインナープロモーションの強化に取り組みます。また、特色ある地域資源を活かし、地域のコミュニティ団体が自主的に実施する地域おこし活動等を支援するほか、これら活動等を市内外に発信することにより、更なる誘客につなげます。

事業名称	継続・新規
沼津の魅力発信推進事業	一部新規
地域活性化事業	継続
沼津の魅力広報・営業事業（再掲）	一部新規

(8) 観光ボランティアガイドの育成及び活動支援

本市では、旅行者の多い沼津港大型展望水門「びゅうお」や沼津御用邸記念公園において、観光ボランティアによるガイドツアーを実施しています。令和2年度から新たに同公園西附属邸内のガイドツアーも開始したことから旅行者が興味を持っている本市の歴史・文学・観光などに関する情報を、これまで以上に提供できるよう、観光ボランティアガイドの育成及び活動支援に努めます。

事業名称	継続・新規
にぎわいづくり推進事業（再掲）	一部新規
観光プロモーション事業（再掲）	一部新規

(9) 近隣大学など教育機関との連携を通じた担い手の育成

効果的な観光施策を企画し誘客に結び付けていくためには、旅行者のニーズ等を的確に把握する必要があります。これらの調査やニーズ等の分析などを、地域観光を研究テーマとしている近隣大学等の教育機関などと連携して実施し、学術的な視点、若者の視点なども取り入れた誘客施策の検討を行います。また、学生等が本市観光振興の担い手となれるよう、協力して事業に取り組むなどの連携強化を図ります。

事業名称	継続・新規
市内観光実態調査事業	新規

基本施策5 県東部・伊豆地域等との連携

(10) 伊豆半島ジオパークやガーデンツーリズム等を活用した連携及び誘客の推進

市内には、ユネスコ世界ジオパークに認定されている18のジオサイト（地質や地形、歴史などを見ることが可能な場所）があり、これらを活用した誘客などに取り組むため、近隣のジオサイトを有する市町などで伊豆半島ジオパーク推進協議会を組織しています。また、沼津御用邸記念公園についても、ガーデンツーリズム登録制度に登録されていることから、これらの連携を活用し、周遊ツアーの造成のほか、各種イベントを開催することにより、更なる誘客を推進します。

事業名称	継続・新規
伊豆半島ジオパーク推進事業	継続
にぎわいづくり推進事業（再掲）	継続

(11) 北条五代観光推進協議会や NHK 大河ドラマなど歴史等を活用した連携及び誘客の推進

映画やドラマなどのロケ地を巡る周遊観光は、本市をはじめ近隣地域の観光交流人口の拡大を図る上で、大きな効果が期待できることから、映画のほか NHK 大河ドラマなどについて、関係団体や近隣市町などと連携し、ロケの誘致を図ります。また、ロケ地巡りツアーなどを企画・実施することにより、更なる誘客を推進します。

事業名称	継続・新規
観光プロモーション事業（再掲）	一部新規
フィルムコミッション推進事業（再掲）	一部新規

基本施策 6 誘客につながる施設整備等の推進

(12) 新しい生活スタイルに合わせた施設等の整備

新しい生活スタイルの定着に伴い、外出時などにおける手洗いや手指消毒の励行、人との間隔を空け、出来るだけ接触を避けるなどの取組が行われています。今後一層の誘客を図っていくため、旅行者が安心して訪れることができる場の提供を行い、必要に応じ観光スポットに観光用トイレ等を整備するとともに、タッチレス水栓を導入するなどの安全・安心に配慮した取組を進めます。

事業名称	継続・新規
観光施設大規模等修繕事業	新規

(13) 観光客が利用しやすい観光スポットの整備

本市を訪れる旅行者に、沼津の魅力を満喫してもらうためには、沼津港周辺以外の観光スポットの更なる周知が必要となります。このうち、かつて旧東海道の宿場町があった原・浮島地区には、近年整備が完了した名僧白隠禅師ゆかりの白隠のみちや、名園として名高い帯笑園などが点在し、市内周遊ルートとして活用できることから、レストスポットの整備や案内板の設置など、観光客が利用しやすい施設等の整備を検討します。

事業名称	継続・新規
沼津の魅力満喫事業	新規
観光施設大規模等修繕事業（再掲）	新規

基本施策 7 新たな観光需要への対応

(14) ワークーションの推進

今後も一定の需要が見込めるワークーションについては、観光協会などの関係団体のほか、宿泊や観光体験等の民間事業者などと連携し、本市の特長についての周知に努めるほか、受入体制の構築を図ります。さらに、モニターツアーなどを実施し、首都圏等企業のニーズを調査・研究するとともに、関係団体などと連携し、沼津ならではのワークーションメニューの創出に取り組めます。

事業名称	継続・新規
ワークーション推進事業	新規

(15) マイクロツーリズムを踏まえた観光情報の提供

市民や静岡県民が、気軽に市内観光スポットを巡ることができるよう、観光ポータルサイトにA I機能を追加し、時間、嗜好などに沿ったオリジナルの観光情報の提供に努めます。さらに、市民に対しては、広報紙などを活用した観光情報の提供を定期的に行うほか、観光ボランティアガイドなどと連携し、市民向けツアーの開催などを検討します。

事業名称	継続・新規
観光ポータルサイト運営事業（再掲）	一部新規
沼津の魅力満喫事業（再掲）	新規

基本施策 8 外国人目線による情報提供

(16) 外国語SNSによる本市の旬な観光情報の発信

アフターコロナを見据え、我が国を訪れる外国人旅行者に、本市を訪問先として選んでもらえるよう、外国語SNSを活用し、外国人旅行者の目線に立った観光情報の発信に努めます。また、市内在住外国人などと連携し、母国に向けて本市観光情報を定期的に発信してもらえる体制の構築を図ります。

事業名称	継続・新規
外国人等受入環境整備事業	一部新規

(17) 外国人の嗜好などにも配慮した外国語版観光サイトの制作運営

本市は首都圏に近く、外国人にも人気の高いゴールデンルート上にあることから、外国語による観光サイトなど様々な媒体を活用し、観光地としての魅力を訴求することにより、外国人旅行者数の拡大につなげます。また、旅行のスタイルや目的が、日本人旅行者と異なっている点もあることから、観光サイト運営事業者や市内在住外国人などと連携し、外国人の嗜好に沿った外国語版観光サイトの制作運営に努めます。

事業名称	継続・新規
外国人等受入環境整備事業（再掲）	一部新規

基本施策 9 在住外国人との連携

(18) 外国語による観光案内及びイベント情報の提供

市内在住の外国人が、例えば、大瀬まつりや戸田港まつりなどの特色あるイベントに参加したり、外国人に好まれる市内観光スポットを訪れ、それらの情報を、母国などにSNS等を通じて発信することにより、今後の誘客につなげることが出来ます。このため、市内在住外国人などに対し、外国語による観光サイト等を活用し、外国語による観光案内やイベント情報の提供を行います。

事業名称	継続・新規
外国人等受入環境整備事業（再掲）	新規

(19) 外国人誘客施策立案のための在住外国人会議の開催

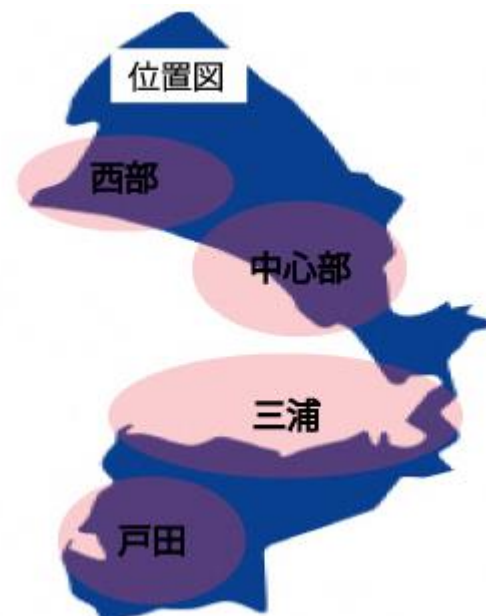
外国人旅行者数の拡大を図るため、英語圏や中国語圏など様々な国籍の市内在住外国人等と協議する機会を創出し、効果的な誘客施策について検討します。また、効果が見込まれる誘客施策については、海外からの誘客などに取り組む関係団体などと連携し、具体的な施策の検討を行います。

事業名称	継続・新規
外国人等受入環境整備事業	一部新規
にぎわいづくり推進事業	一部新規

第8章 市内エリアごとの戦略

これまで、9つの基本施策ごと具体的な取組について見てきましたが、今後一層の誘客を図っていくとともに、本市を訪れる旅行者の滞在時間の拡大を促していくためには、市内エリアごとの特性を分析し、エリアを跨いだ広域の周遊観光に結び付けていくことが有用です。このため、市内を地域資源の特徴が類似し、歴史的にもつながりの深い4つのエリアに以下のとおり分類し、エリアごと重点的に取り組む戦略について考察します。

1. 西部エリア
2. 中心部エリア
3. 三浦エリア
4. 戸田エリア



1. 西部エリア

エリアビジョン

- 歴史・文化と体験観光

特 徴

- 新東名高速道路駿河湾沼津スマートインターチェンジや東名高速道路愛鷹スマートインターチェンジに近接する、西の玄関口にあたります。このエリアには、旧東海道の宿場町が置かれたほか、周辺には歴史浪漫が感じられる名刹・名所旧跡が点在しています。また、千本浜から続くゆるやかな海岸線や愛鷹山周辺の農園などがあるため、釣りや地引網、農業体験などが楽しめます。

エリア戦略

- 白隠のみちや興国寺城跡、阿野全成ゆかりの大泉寺など、西部エリアにある歴史・文化資源のネットワーク化を図り、観光ポータルサイトなどを活用した情報発信を行います。また、観光ボランティアガイドなどと連携し、周遊ツアーを造成・実施することにより、誘客を図ります。
- 2つの高速道路にアクセス可能であるという特長を生かし、周辺の農家などと連携したオリジナルの農業及び収穫体験プログラムの造成や、海で行う地引網など、体験型観光の周知を行うことにより、更なる誘客を図ります。

2. 中心部エリア

エリアビジョン

- 食とアクティビティのまちなか観光

特 徴

- JR沼津駅やバスターミナル、沼津港が立地するなど、公共交通の利便性が高いエリアです。沼津駅から2 km圏内に海・山・川がある自然と共存できる環境にあるため、身近に登山やマリンスポーツが楽しめます。また、本市最大の観光スポットである沼津港に隣接する飲食店街では、寿司をはじめとする様々なグルメを堪能できるほか、皇室ゆかりの沼津御用邸記念公園にもアクセスしやすく、短時間でまちなか観光を満喫できます。

エリア戦略

- 年間166万人が訪れる沼津港周辺のにぎわいを、沼津駅など市中心部に波及させるため、旅行者が、市中心部から沼津港周辺までを徒歩や自転車で散策できるよう、蛇松緑道や狩野川遊歩道なども活用した周遊マップを作成します。また、まちなかの周遊性を向上させていくため、沼津駅周辺の公共空間を再編することにより、利活用可能な空間を生み出すとともに、民間団体などが実施するにぎわいづくりイベントなどを支援します。
- 沼津港周遊クルーズや沼津アルプス登山、狩野川でのカヤック体験など、海・山・川のアクティビティに加え、飲食や買い物などの観光全般について、宿泊だけでなく、コンパクトに満喫できる「沼津ならではの」魅力を、観光ポータルサイトなどを活用することにより発信します。

3. 三浦エリア

エリアビジョン

- 体験型及びロケ地観光

特 徴

- ダイビングやシュノーケリング、ウインドサーフィンなど海の魅力を満喫できるマリンスポーツや、駿河湾越しの富士山がのぞめる海岸線沿いのサイクリングなど、スポーツを堪能できるエリアです。このエリアには、映画やドラマのロケ地として人気のある、旧沼津市立静浦中学校をはじめとするロケ地が点在しています。また、アニメ「ラブライブ！サンシャイン!!」の主な舞台ともなっており、本市におけるロケ地観光の拠点という一面も持っています。

エリア戦略

- ダイビングをはじめとする海のレジャーやサイクリングなど、観光ポータルサイトなどに特集ページを作成するほか、サイクリングと地域資源を組み合わせた観光プランを造成することにより、このエリアの魅力を発信します。また、民間団体などが実施するにぎわいづくりイベントなどを支援します。
- 地域のフィルムコミッション活動などを行う関係団体などと連携し、映画などのロケの誘致を図ります。また、ロケ地マップの作成やロケ地ツアーなどを実施することにより、ロケ地を活用した誘客に取り組みます。

4. 戸田エリア

エリアビジョン

- 深海魚と海、スローライフ満喫観光

特 徴

- 日本一の深さを誇る「駿河湾」に面していることから、このエリアでは、水揚げされたばかりの深海魚やタカアシガニを観て、触れて、食べて楽しむことができます。さらに、全国で最も水質がきれいな海水浴場の一つである井田海水浴場のほか、ロシアと関わりがある戸田港まつり、パワースポットでもある諸口神社など、オンリーワンの海の魅力に溢れています。また、海と山の雄大な自然に抱かれた空間では、都会の喧騒とはかけ離れたスローライフを満喫することができます。

エリア戦略

- 深海魚をモチーフとした観光動画の活用や、深海魚にちなんだイベントの開催などにより、「深海魚のまち 沼津」の周知を図ります。また、このエリアが持つオンリーワンの海の魅力を、観光ポータルサイトや観光パンフレットなどに活用し、情報発信に努めます。
- 海と山に囲まれた自然豊かな特長を活かし、「スローライフ」「非日常」を満喫できる場として、観光協会等の関係団体などと連携し、沼津ならではのワーケーションメニューの創出に取り組みます。

第9章 コロナ禍における対応

令和2年1月以降の新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、緊急事態宣言が発令され、全国的に外出や移動の制限等がなされたことにより、市内の観光交流客数や宿泊者数などが減少しています。

このような中、宿泊や飲食、観光施設などの観光業への影響を最小限に抑えるとともに、今回目標として掲げた、コロナ禍の影響から新しい生活スタイルに合わせた誘客を進めていく必要があります。

今後も、新型コロナウイルス感染症の感染状況に注視しつつ、国や県、関係団体などと連携して、迅速かつ柔軟に施策を実施します。

今後取り組む施策

(1) デジタル技術の活用による旅行者の分析及び誘客施策への活用

事業名称	継続・新規
観光ポータルサイト運営事業	一部新規
広域観光事業	継続

(2) 新しい生活スタイルに合わせた施設等の整備

事業名称	継続・新規
観光施設大規模等修繕事業	新規

(3) ワークেশヨンの推進など新たな観光需要への対応

事業名称	継続・新規
ワークেশヨン推進事業	新規
観光ポータルサイト運営事業（再掲）	一部新規
沼津の魅力満喫事業	新規

(4) 外国語サイトの運営などによる本市の旬な観光情報の提供

事業名称	継続・新規
外国人等受入環境整備事業	一部新規
にぎわいづくり推進事業	一部新規



参考資料

1. 観光振興ビジョン改定懇話会委員名簿

	氏名（敬称略）	所属団体等
1	穴戸 学	日本大学国際関係学部 国際総合政策学科 教授
2	高野 貴好	特定非営利活動法人沼津観光協会 会長
3	土屋 雄二郎	沼津商工会議所観光サービス業部会 会長
4	小森 裕之	沼津市旅館ホテル組合連合会
5	清水 修	沼津バス協会 会長
6	佐藤 慎一郎	沼津港事業者
7	朱 珠	一般社団法人富士山浪漫之旅 代表理事 （出身：中華人民共和国）
8	桜井 シェリー	国際交流協会 （出身：オーストラリア）
9	矢川 未空	立教大学観光学部梅川ゼミナル沼津観光地研究班
10	飯島 浩人	公募委員
11	寺地 咲子	公募委員
12	山田 和子	公募委員

2. 沼津市観光振興ビジョン改定懇話会開催及びパブリックコメントの実施

(1) 沼津市観光振興ビジョン改定懇話会

	開催日	議題
第1回	令和2年7月31日	観光の現状と課題 改定懇話会委員からの意見及び提案
第2回	令和2年10月9日	観光のテーマ及びニーズ等 沼津市観光振興ビジョン骨子案の検討
第3回	書面会議	観光振興の柱及び基本施策の検討
第4回	令和3年3月18日	沼津市観光振興ビジョン原案の検討

(2) パブリックコメントの実施

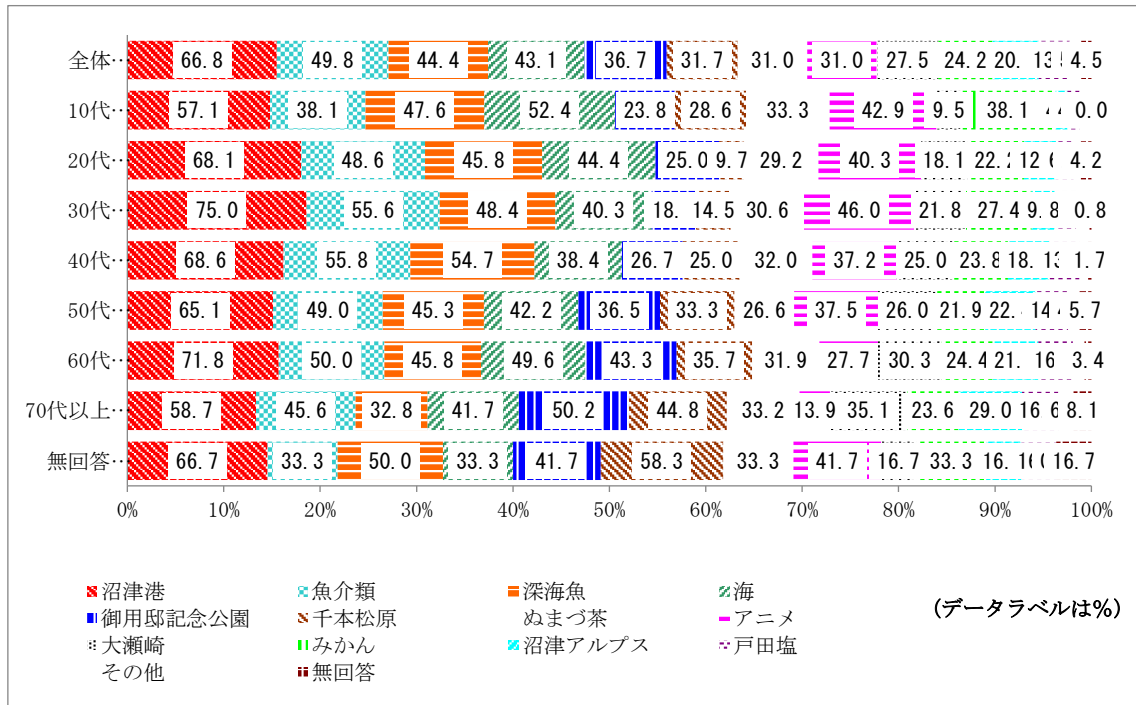
	内容
募集内容	沼津市観光振興ビジョン改定（案）の骨子
募集期間	令和3年2月1日 ～ 令和3年3月1日
閲覧場所	沼津市ホームページ 沼津市役所（5階観光戦略課、2階生活安心課） 各市民窓口事務所、市立図書館
意見等の件数	0件（0人）
結果の概要	ご意見等なし

3. 市民アンケート

今後、更なる観光振興を図っていくに際し、市民のご意見を参考にするため、市民意識調査を活用し、本市観光に関するアンケートを実施しました。

問1 沼津市が、より一層の観光誘致を図っていくために活用できる地域資源（観光資源）は何だと思えますか（〇はいくつでも）。

沼津港、魚介類、深海魚、海、御用邸記念公園、千本松原、ぬまづ茶
アニメ、大瀬崎、みかん、沼津アルプス、戸田塩、その他、無回答

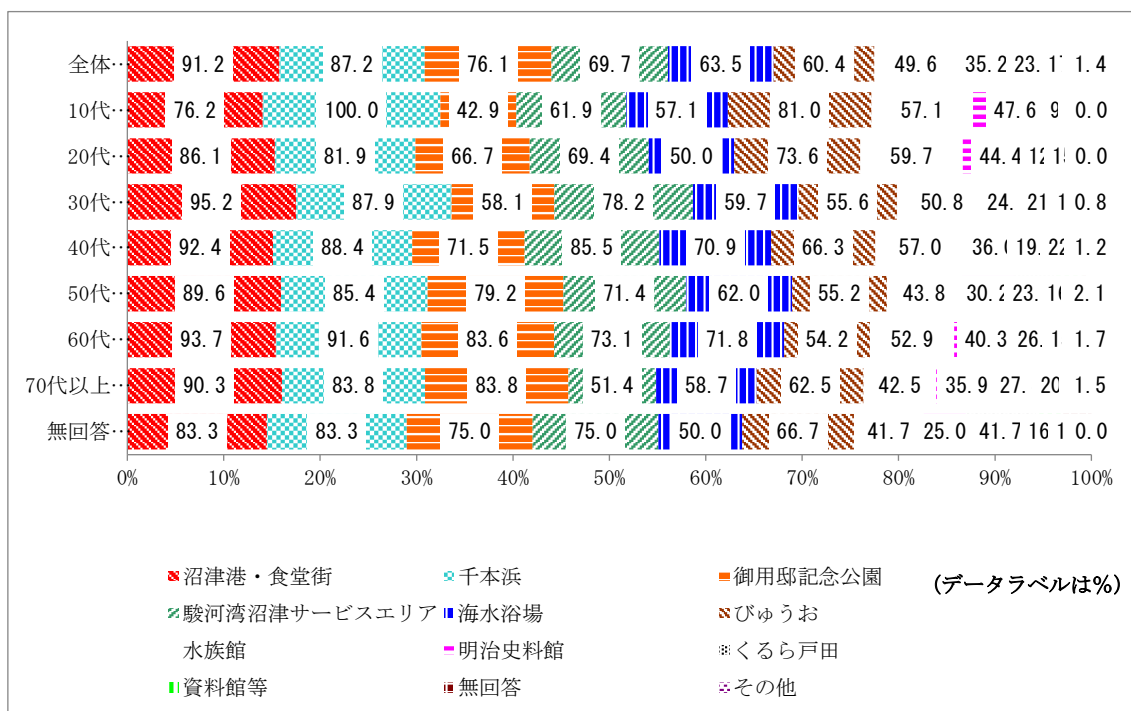


「海」にちなんだ地域資源の活用を求める人が多い

観光誘致を図っていくために活用できる地域資源（観光資源）は、「沼津港」が66.8%と最も多く、次いで「魚介類」が49.8%、「深海魚」が44.4%、「海」が43.1%の順となっており、広義での「海」をキーワードとした地域資源の活用を求める声が多い。年代別にみると、どの年代においても「沼津港」が多いものの、30代・40代では「深海魚」も多く、60代・70代以上では「御用邸記念公園」が多いなど、年代ごとの特徴が表れている。

問2 市内観光施設のうち、訪れたことのある施設はどれですか（〇はいくつでも）。

沼津港・食堂街、千本浜、御用邸記念公園、駿河湾沼津サービスエリア
 海水浴場、びゅうお、水族館、明治史料館、くるら戸田、資料館等
 その他、無回答



訪れたことのある施設では、50代以上は「御用邸記念公園」

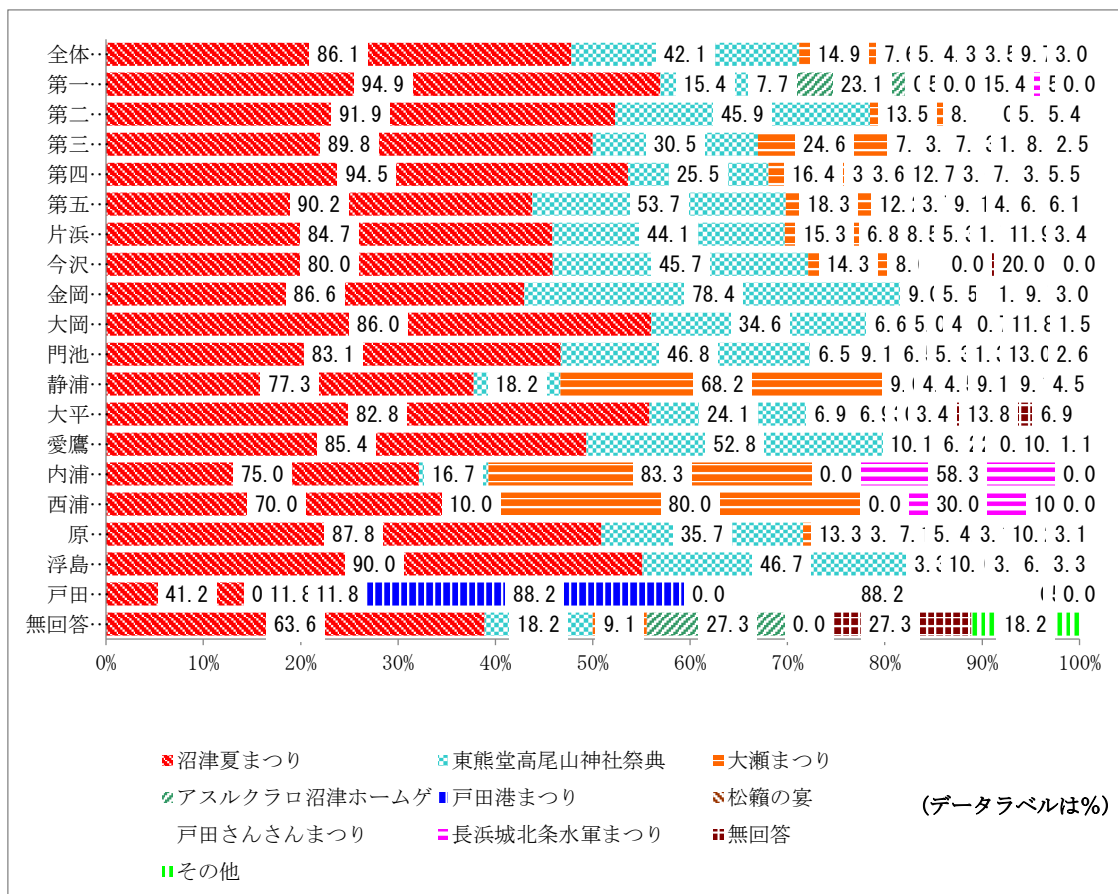
20代以下は「びゅうお」が多い

訪れたことのある施設は、「沼津港・食堂街」が91.2%と最も多く、次いで「千本浜」が87.2%、「御用邸記念公園」が76.1%、「駿河湾沼津サービスエリア」が69.7%の順となっている。

年代別にみると、「御用邸記念公園」は50代以上が多い一方で、「びゅうお」は10代・20代が多いなど、年代ごとで偏りが見られることから、PR方法や媒体などを工夫し、各施設の来場者数が増加するよう努めていく。

問3 市内で開催されるイベントのうち、参加したことがあるイベントはどれですか（〇はいくつでも）。

沼津夏まつり、東熊堂高尾山神社祭典、大瀬まつり、アスルクラロ沼津ホームゲーム、戸田港まつり、松籟の宴、戸田さんさんまつり、長浜城北条水軍まつり、その他、無回答



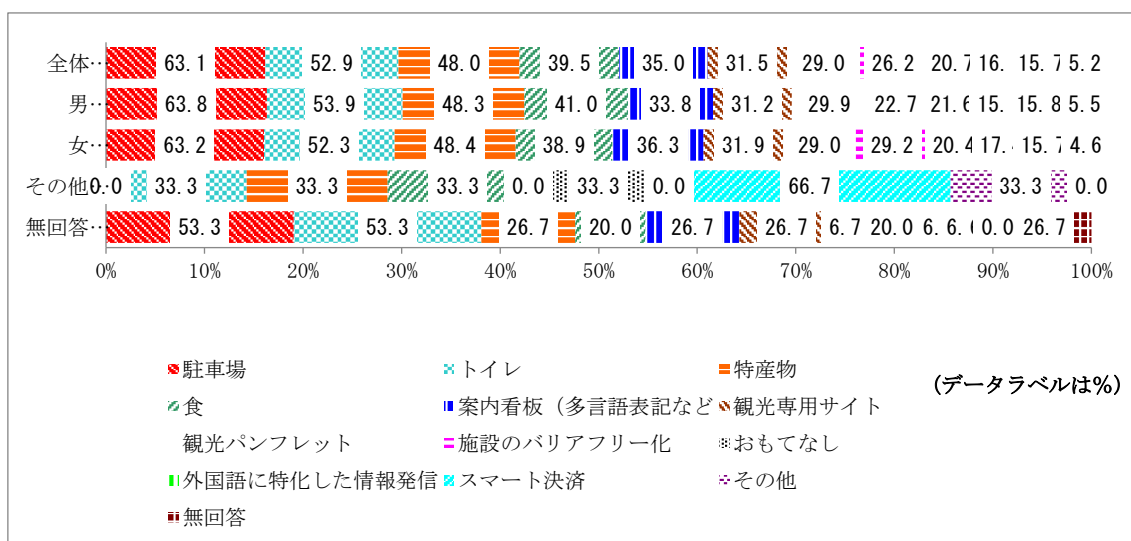
約9割の市民が「沼津夏まつり」に参加している

参加したことがあるイベントは、「沼津夏まつり」が86.1%と最も多く、次いで「東熊堂高尾山神社祭典」が42.1%、「大瀬まつり」が14.9%の順となっている。

地区別にみると、「沼津夏まつり」では、会場に近い第一、第二、第四、第五が90%を越えている一方で、戸田地区では41.2%となっているなど、住んでいる地区のイベントに参加する割合高い。

問4 沼津市の観光がより良い発展を遂げていくためには、どのような点を改善（導入）した方が良いと思いますか（〇はいくつでも）。

駐車場、トイレ、特産物、食、案内看板（多言語表記など）、観光案内サイト、観光パンフレット、施設のバリアフリー化、おもてなし、外国語に特化した情報発信、スマート決済、その他、無回答



改善点については、ソフト面・ハード面とも大きな偏りはみられない

どのような点を改善したらよいかでは、「駐車場」が63.1%と最も多く、次いで「トイレ」が52.9%、「特産物」が48.0%、「食」が39.5%の順となっている。

性別で見ると、項目ごとに大きな差は見られず満遍なく改善点があるほか、「駐車場」や「トイレ」などのハード面、「特産物」や「食」などのソフト面ともに高い割合であることから、着手可能な項目から順次改善に取りかかることにより、安全安心に配慮しつつも一層の観光振興を図っていく。

numazukanko.jp



沼津市観光振興ビジョン

発行：沼津市役所産業振興部観光戦略課
☎055-934-4747 ✉kankou@city.numazu.lg.jp

